

主な樹種の紹介です。

アオギリ

大きな葉で葉の形と独特な緑色の樹皮が特徴。枝ぶりが粗い為、その特徴を活かした剪定が必要な樹木です。実も特徴があります。

亀戸、東雲地区に植栽されています。

アキニレ

大気汚染、潮風に強く、潮見や新木場地区に植わっています。葉が小さく枝も細い為、比較的明るい緑陰を提供できます。近年、ニレハムシの食害により美観を損ねる為、コモ巻きによる長期的な防除を取組んでおります。

アンズ

ウメとごく近い樹種です。花期は3月で区内でも自然に結実します。メジロが花の蜜を吸いに来たりもします。

イチヨウ

雄と雌があり、区内の街路樹では40本程度雌の木がありギンナンが成ります。普段見慣れている円錐形の樹形はあくまでも人工的に仕立てている樹形です。

エンジュ類

この木の葉は専門用語で羽状複葉といいます。初夏に黄色の花が咲き実も付きますが、落ちた実で道路が汚れるのが難点です。最近では、がんしゅ病に侵され幹がみにくくなっているのもあります。

クスノキ

常緑樹でありアオスジアゲハの食樹です。昔、根から樟脳をとっていました。葉も樟脳の香りがします。潮見、辰巳、新木場地区に植栽されています。

クロガネモチ

縁起木の1つであり、常緑樹の雌雄異株です。雌の木に赤い実が付き、冬場、ムクドリ等が食べに来ます。

ケヤキ

落葉樹の代表といってもいいです。樹形を考慮すると、歩道幅員の広い場所が適しています。落ち葉の時期、苦情が多いですが、地元の方の協力や道路の清掃で対応しています。

越中島通りやうるおいの木かげ道路が代表です。

コブシ

春の訪れと共に純白の花を咲かせ、その後、新葉が出てきます。実を握り拳に例えたとも言われている。現代美術館東側に植栽されています。

サクラ類

街路樹で多いのはソメイヨシノです。花が咲いた時はとても歓迎されますが、葉桜以降、アメリカシロヒトリを代表とした毛虫の食害に侵されやすく、その時期は敬遠されます。

サルスベリ

幹肌はすべすべして独特な幹模様がある。花期が長く、赤、白、ピンクの種類がある。カイガラムシが発生するのが難点。新木場地区に植栽されています。

センダン

初夏に淡い紫色の花が咲く。横に広がる傘形の樹形になる。東陽四丁目に植栽されています。

ソヨゴ

常緑樹、クログネモチと同じく雌雄異株。実は赤くぶら下がる。亀戸4丁目に植栽されています。

ナンキンハゼ

辰巳二丁目に植栽され、紅葉の時期、クスノキの緑に映えきれいである。梅雨の時期、花がよい香りを放ちます。

ニセアカシア

辰巳一丁目に植栽。成長が早く、地下茎でも繁殖するので、最近根上りを起こしてしまっている。木も大きく夏季には明るい緑陰を提供している。蜜源植物としては重要ではあるが、いろんな虫がつくのが、難点です。

ハナミズキ

ここ数年、区内でもよく植栽されている。独特な枝ぶりと5月に白や赤の花が咲くのが特徴。深川資料館通り外区内各所に植栽。

フウ・モミジバフウ

それぞれ葉の形が異なり、紅葉の色が違う。大木になり東雲地区ではそれを確認できる。大気汚染に強い為、よく使われる。

プラタナス類

三種類あり、それぞれ鈴のような実の数や樹皮がちがう。剪定時期により、実が確認できない路線があります。区内で多数植栽。

マテバシイ

丈夫で潮風や大気汚染に強い。どんぐりがなるが、実が熟すまで2年くらいかかるので、毎年剪定すると実がつかない。塩浜、枝川地区に植栽。

ヤマモモ

雌雄異株で雌に赤い実がつき食べられるが、その時期、実が歩道に落ち汚れるのが難点です。丈夫で潮風や大気汚染に強い。亀戸、東雲地区に植栽。